

- ◇ 本単元で育成する資質・能力  
批判的に考える力  
多面的・総合的に考える力  
他者と協力する態度

\* ESD (持続可能な開発のための教育) の視点に立ち整理した7つの資質・能力  
能力: 批判的に考える力, 未来像を予測して計画を立てる力, 多面的・総合的に考える力, コミュニケーション力  
態度: 他者と協力する態度, つながりを尊重する態度, 進んで参加する態度

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 単元名 「地域の課題を解決すること ～活動計画・手順・方法の見直し～」
- ◇ 本単元の目標

これまでの地域活性化に係る取組を振り返るとともに、先進的な地域活性化プロジェクトを参考に、今後の方向性について考える学習を通じて、具体的な未来像を予測して計画を立てるために批判的に考えたり、多面的・総合的に考えたりする力や他者と協力する態度等を身に付ける。

時	本単元の主な学習活動
1	他校(油木高等学校)の取組に対する外部からの高い評価を知って憧れを感じ、これまでの自分たちの活動を振り返る。
2	これまでの自分たちの取組の振り返りをし、油木高等学校の取組について、資料から読み取ったことと比較する。
3・4	油木高等学校の「ナマズプロジェクト」の生徒発表を聴く。 油木高等学校の「ナマズプロジェクト」に関する資料と発表を基に、グループで質問を作成し、油木高等学校の生徒との質疑応答を通じて、必要な情報を得る。
5・6	得た情報等を基にグループで協議を行い、今後の取組の方向性についてまとめる。 全体の場で、協議した内容を発表する。
7	前時の他のグループの発表内容を基に、再度情報を整理し、今後自分たちが取り組んでいく方向性について確認し、新たな課題を自覚する。

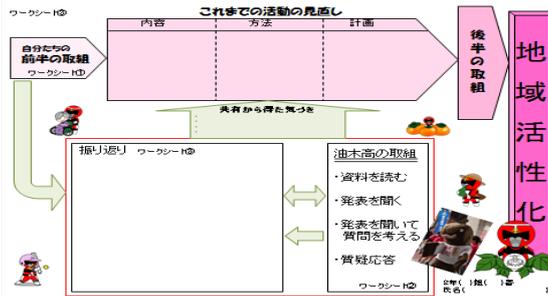
[本単元の特徴]  
本単元の目標を達成するために、新たな課題を設定するため、これまでの取組を振り返り、今後の方向性や具体的な取組について考えさせる。  
課題設定にあたり、同じ高校生の取組を参考にすることで、知的好奇心や「憧れ」を持たせ、生徒がより意欲的に取り組むよう工夫している。  
単元を展開するにあたり、探究のプロセスの流れである「課題の発見・設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「新たな課題の設定」を取り入れた。

◇ 学習の流れ(全7時間)

学習過程 (○教師の発問, ●生徒の反応予測)	指導のポイント	評価規準 (評価方法)
<p>1 課題を見いだす。 【課題の練り上げ】</p> <p>(1) 油木高等学校と本校の地域活性化に係る取組状況を比較する。 ○御調高等学校では、地域活性化の取組として、どのようなことをしてきたか。 ●パバイヤを使った商品開発、地域の祭りへの参加、道の駅「クロスロードみつき」の「ありがとうデー」での活動等。 ○取組に関する油木高等学校との共通点と相違点は何か。 ●地域に密着しているところが同じだ。 ●ナマズに絞って活動しているところが違う。</p> <p>(2) 油木高等学校の取組への憧れを持つとともに、自分たちのこれまでの取組を振り返る。 ○どんなふうに違うと思ったか。 ●油木高等学校の取組の方が地域全体に広がっている。 ●油木高等学校は大企業から連携を依頼されて、ナマズを販売している。 ○なぜ、油木高等学校の取組には広がりが出ているのか。 「ナマズプロジェクト」の資料を読み取ってみよう。</p> <p>(3) 「ナマズプロジェクト」の資料から両校の取組の違いを生み出す原因を考える。 ○資料から、自分たちの取組との違いについてどんなことが読み取れたか。 ●活動する内容をナマズに絞っている。 ●ナマズに絞ることで、県内や全国に取組が注目されている。 ●失敗を重ねても、粘り強く努力して成功しているところがすごい。 ○なぜ自分たちの取組との違いが出てくると思うか。 ●人々が注目する「美容」「健康」に着目している。 ●高校生なのに、先を見越して計画を立てて行動している。 ●地域にある「マイナス」を「プラス」に変えている。 ○考えたことを次回の実践発表を聞いて確かめよう。</p> <p>(4) 油木高等学校の「ナマズプロジェクト」の生徒発表を聴く。 (5) 発表と(3)の資料で集めた情報を基に、自分たちの取組をより良いものにするためのヒントや油木高等学校の生徒への質問を考えさせる。 ○発表から新たに気付いた点をグループで共有して、質問を考えよう。</p>	<p>【発問の意図】 油木高等学校と本校の置かれている状況や取組に大きな差がないことを確認させる。</p> <p>・同じ観点から選んだ油木高等学校と本校の特徴的な取組場面の写真を提示し、相違点や共通点に気付かせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>御調高校の活動</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>油木高校の活動</p>  </div> </div> <p>【発問の意図】 油木高等学校の取組について具体的な情報を段階的に取り入れることで振り返りの視点を焦点化させるとともに、外部からの注目度や評価の違いに気付かせる。</p> <p>・資料(「ナマズプロジェクト」を紹介した雑誌記事)を読み取らせた上で、自分たちの取組との違いを生じさせている原因及び課題について考えさせる。</p> <p>・同じ高校生から実践発表を聴くことを通して、“憧れ”から“自分たちにもできるかもしれない”、“してみたい”という願望を持たせる。</p>	<p>自分達の取組について様々なものごとを関連付けて考えている。 (作品法: ワークシート, 観察法: 行動観察)</p>

- (6) グループに分かれ、質問を作成する。
- なぜ、ナマズを使おうと思ったのか。
  - 油木高等学校にとって地域活性化とは何か。
  - どのようにして地域全体で取り組むことができているのか。
  - マツダと連携するために取り組んだことは何か。
- (7) 油木高等学校の生徒に質疑応答を行い、自分たちの取組の改善や課題解決のために必要な情報を得る。
- (8) 質疑応答後に全体で意見交流する。
- 油木高等学校の発表を聴いて、どのように感じたか。
- 高校生が地域の願いを取り入れて活性化を進めていてすごいと感じた。
  - 何かを始める時には、いろいろな選択肢を比較・検討したり、組み合わせたりする必要があると感じた。自分たちの取組に生かしていきたい。

- ・問題解決の糸口となる質問はどれか生徒自身に決定させる。
- ・質問の仕方に困る場合は、各グループの担当教員が、生徒に助言する。



他者の意見や情報を、よく検討・理解して、自分の考えに採り入れている。  
(作品法：ワークシート、観察法：行動観察)

## 2 課題を設定する。

### 【課題】

先進的な取組を参考にして、自分たちの活動をより充実させたり、魅力的なプランにしたりするためには、どうすればいいだろうか。

## 3 課題の解決策を考える。

- (1) これまでに得た情報等を基に、自分たちの取組の課題についてグループで協議する。
- (2) グループ協議を通じて、今後の取組の方向性をまとめる。
- 期限が限られている中で、本当にその取組は実践できるのか。その取組は、本当に地域活性化につながるのか。
- 地域を活性化するために、残りの期間で何ができるのか、もう一度考え直してみる。
- (3) グループで協議したことを、全体で発表する。

- ・課題をワークシートに整理させ、リーダーを中心に合意形成を図らせる。課題を可視化したものをグループで共有させるとともに、今後の取組の計画を内容・方法等の視点に着目して考えさせる。

### 【発問の意図】

実現可能な解決策になるよう新たな視点を投げかける。

- ・協議の形態を個やペア、少人数など、各グループの状況に即して話し合いが進むようにファシリテートする。
- ・全体で共有した情報から気づきを引き出すとともに、具体的な取組を実行するために何をすべきかを問う。
- ・生徒が地域とのつながりを尊重するような行動が取れるよう、事前に考えさせる。

他者の意見や情報を、よく検討・理解して、自分の考えに採り入れている。

相手の立場や成功を考えて、協力して活動している。

(作品法：ワークシート、観察法：行動観察)

## 4 自分たちの考えを整理して表現する。

- (1) 前時の各グループの発表から得た情報を基に、再度グループで今後の取組の方向性や具体的な取組について協議する。
- (2) 道の駅「クロスロードみつき」等の地域の関係施設と連携し、各グループが考察した活動を実行する。

## 【実践結果】生徒の変容

### 1 課題の練り上げの状況

他校の生徒の実践発表を聴く前は、地域を活性化させたい思いはあっても、自分たちの考える取組は実現不可能なのではないかと考えていたグループもあった。しかし、単元を通して、自分たちの取組を他校の取組と比較しながら様々な角度から繰り返し振り返ったり、同じ高校生から成功に至るまでの苦労や具体的な取組方法を聴き、それに対し質問をしたりすることを通して、今後の具体的な方法や活動の方向性を見いだす上での課題を各グループでつかむことができた。

### 2 課題解決の達成状況

「自分たちがこれまで行ってきた取組が、本当に地域活性化につながっているのか。」「自分たちの取組をどのようにしたら広めていけるのか。」等、これまでの取組に対して批判的なものの見方や考え方ができるようになり、課題解決に向けての具体的な方法や方向性を見いだすことができた。また、自分たちの取組を実現するための計画を立てようと主体的に取り組み始めた。例えば、新たなキャラクターを作成するかどうか悩んでいたグループでは、油木高等学校のキャラクター「なまっしー」の作成方法を参考に、「自分たちで作ってみたい。」と意欲的に取り組むようになった。

### 3 振り返りにおける生徒の気づき

これまでの御調地域を中心とした活動だけでなく、違う場所での活動が必要であると考え始めた。「自分たちだけでは目標達成が困難だ」と判断し、それを解決するためには、多方面の人々とのつながりを作ったり、地域の力を借りたりして、目標を達成するための具体的な手段を考え行動するグループも出てきた。また、本校の各グループ間の連携を深めることや、他校との協働による商品の共同開発等に着眼し、具体的な取組を始めた。

## 【改善の方向性】

生徒が課題発見に至るまで、他校の取組と多面的に比較しながら自校の取組を振り返る活動を通し、生徒が自然と他者に対する“憧れ”を強めていく。このプロセスが課題の練り上げとなっている点が高く評価できる。

一方で、新たな課題を自覚する場面では、実現可能性を検討するなど、見通しを立てた上で実践に移すようにしていく必要がある。また、活動の目的や発問の意図が評価規準と合致するように計画段階で十分に練る必要がある。